



ベン・シャーン 画集より《ゴイエスカス》1956年
 Bernarda Bryson Shahn 著；桑原住男訳；アール・ヴィヴァン、蓮見哲弥編集
 東京：リプロポート，1981.
 (神奈川大学図書館 所蔵)

CONTENTS

- 新図書館長からのメッセージ 図書館長 / 新中新二 2頁
 平塚図書館長 / 金谷良夫 3頁
- 2018年4-5月 図書館展示報告 平成史 part 1 (平成元年-平成15年) 4頁
- 視聴覚資料室から Vol.2 暑い夏！暑いインドの映画を観よう！ 6頁
- 図書館の所蔵資料紹介 『ベン・シャーン 画集』 7頁
- 図書館からのお知らせ 今号の表紙 / 編集後記 8頁



新図書館長からのメッセージ

神奈川大学図書館の課題

神奈川大学図書館長 新中 新二

先日、館長業務の一環として、私立大学図書館協会東地区部会の総会、館長会、研究講演会に出る機会を得た。総会の冒頭で、2017年度脱退校3校、2018年度脱退届校2校の紹介があった。少々ギクリとした。

我国は長期少子化傾向にあり、市場縮小の中の経営は困難を極めることは、頭では理解していた。また、私立大学の約4割が赤字経営であること、約2割が3期連続赤字経営であることも承知していた。今日、大学の廃業は企業同様に現実的なものであることは理解してはいたが、差し迫った感覚をもっていなかった。上記東地区脱退5校は、私立大学自体の「消滅（吸収合併、公立化を含む）」によるものであり、西地区をも考えると、全国的には2倍程度の私立大学が消滅していると、理解せねばならない。これが「ギクリ」の所以である。

私立大学の存在価値の根源は、「教育力」にある。「研究力」をも存在価値としうる私立大学は限られている。我が神奈川大学においては、教育力こそが存在価値の根源である。本学が、社会から支持され、進歩発展するには、総合教育力を高めなければならない。総合教育力の中核は、学部、大学院による直接教育と、図書館による学習支援である。

図書館による学習支援の様態は、20世紀型から21世紀型へ変貌しつつある。20世紀型が「知」の集積・提供を主軸としたのに対し、21世紀型は、20世紀と同一の軸を維持しつつも、学生に対する直接的な学習支援という新たな軸を創生しつつある。

神奈川大学図書館における「知」の集積・提供の第1軸は、図書館システムのICT化を継続的に推し進め、順調に進歩発展してきている。代わって、第2軸は如何であろうか。本学における教育システム、同システムにおける学習支援(サブ)システムは、合理的で整合性がとれたものとなっているのであろうか。

本学では、学習支援を役割とした「教育支援センター」が組織され、学生支援スペース「KUスクエア」が開設されている。一方、図書館は、伝統的な学習支援に加え、「ラーニング・コモンズ」、「情報

リテラシー」等の教育支援を標榜している。大学組織図においては、図書館と教育支援センターとは、対等並列の位置にある。情報リテラシー教育は図書館が担う一方、学習支援の一部であるラーニング・コモンズとその運営は、教育支援センターが実質的に提供・担当している。図書館によるそれらは、限定的である。学習支援という同一役割を担う両者であるが、これまでは、概して両者の連携は取れていないと考えている。現場職員同士の連携は可能であろうが、この要請以前に、合理的かつ整齐としたものに「教育システム」を再構築する必要がある。さもなくば、現場に非効率と意味のない努力を強いることになりかねない。整齐たる教育システムの再構築は、上級幹部の責務である。

役割を正々と果たすには相応の組織が必要である。組織たる図書館自体が問題を抱えている。第一が建物としての図書館である。図書館は築40年を迎え、老朽化・旧態化が進んでいる。20世紀型サービスを前提に建築された図書館は、21世紀型サービス提供には構造的に不向きである。既に「図書館全面改修検討チーム」が編成され、この対応を開始している。単なる復旧的な改修ではなく、21世紀型サービスを効率的に提供できる改修としたいと考えている。

図書館自体の第二の問題は、組織構成員たる図書館員にある。現在は、正規、嘱託、契約、派遣、業務委託の5職員が協働し、図書館を運営している。図書館システムのICT化の進展、21世紀型サービスの拡充に伴い、司書・図書館員はこれに見合った能力が求められている。非正規職員に如何ほどが期待できるのであろうか。一方、財務的問題もあり、正規館員は一定の割合に抑えざるをえない。図書館は、二律相反問題の解決を求められている。

図書館が抱える第三の問題は、みなとみらいキャンパス・図書館分館の在りようである。21世紀型サービスを十分に提供できる分館としたいと願っているが、図書館長として責任ある関与ができていないのが実状である。

大学の歴史を通して見ると図書館とは静かな学術的雰囲気醸し出す中心的存在である。歴史の過渡期にある今日の図書館、すなわち物理的およびオンライン的空間として見ても依然としてそれにかわりにはない。図書館は、言うまでもなく学生、教職員、あるいは同窓生などに知的な学びの場と情報とを提供し、そうした人々の学習や研究の進展に本質的に資するのがその大きな使命である。この意味で図書館の果たす役割は非常に大きい。個人的な経験に照らしても図書館は常に大きな意味を持ってきたし、また同時に寛げる空間でもあった。アメリカでは、たとえばそうした役割を果たす指標に成り得るのが大学図書館のランキングのオンラインでの公表がある。

訪れる利用者が学究的な空気に浸り心置きなく研究できる環境は何物にも代え難いし、単に新聞や雑誌をゆったり寛ぎながら読むこともできるばかりか、将又、そこで瞑想に耽ることも可能である。本学の図書貸出数がここ数年間減少傾向にあるのは、いくつか理由が考えられるが、大きな理由として IT 機器の個人所有率の上昇があろう。だが、一方で図書館が利用率を更に上げる知の環境になればそれほど問題はないだろう。したがって、そうした方向へ向かう努力を我々は怠ってはならない。

オンラインによる情報源には数多あるが、全米「大学図書館トップ50」（2018年6月9日付け）にはそれぞれの蔵書数を基準にランク付けがされている。凡の蔵書数を次に述べよう。第1位はハーバード大学の16,832,000冊、第2位がイリノイ大学（州立）アーバナ・シャンペイン校の13,158,000冊、そして第3位がイエール大学の12,787,000冊となっている。因みに本学の提携校の一つであるカンザス大学は第39位で4,318,000冊である。上記のハーバード大学図書館、イエール大学図書館およびカンザス大学図書館を实际使ってみて、その充実した環境に圧倒されたことが今も心に残っている。別なサイトで見ると、それぞれアメリカの議会図書館は29,550,000冊で、国会図書館の東京本館（そのほか関西館と国際子ども図書館がある）は25,700,000冊である。筆者は本学から幸運にも、第4位の約11,189,000蔵書数を有するカリフォルニ

ア大学（州立）パークレー校に訪問研究員として1年間滞在することができ、言わば至福の時空を身をもって経験したと言ってよい。パークレー校には大学院図書館や学部図書館など複数の図書館が存在する。滞在したのはバンクロフト図書館内の研究所である。

研究所とは、正に知的空間そのもので、数々の部門を擁するバンクロフト図書館に付随するマーク・トウェインプロジェクトのことである。このプロジェクトは人文系で世界最大かつ最高額予算を要する研究を誇る。スタッフの数は約10名だが、カリフォルニア州によって雇用されているのは2名でその他の雇用は合衆国政府の助成金によって賄われているのだ。研究所による図書出版については当初紙媒体であったが、今はデジタル出版が中心となっている。研究所に毎日のように通い、図書、雑誌、アーカイヴ、マイクロフィッシュ、マイクロフィルムなど膨大な資料と優秀で好感の持てるスタッフに囲まれ、最終的に1冊の翻訳書を上梓できた思い出がある。研究所の知的環境はまさしく専門家の垂涎の的なのだ。

今日の図書館は基本的に利用者に対して知的空間の提供だけではなく、あらゆる支援を行う組織であるべきだ。そうした環境の中で、ハードの面やソフトの面でもあらゆる情報の閲覧に供することが図書館の使命を果たすことになるのである。我々はそうした役目を果たす努力をしたい。



風景：湘南ひらつか
キャンパス

平成史 part 1

平成元年(1989)～平成十五年(2003)

平成29年12月8日、政府は今上天皇が退位される日を平成31年(2019年)4月30日とする政令を閣議決定しました。これにより平成という時代は終わりを告げ、新たな元号に変わることになります。横浜図書館では平成という時代をテーマにそのパート1として平成元年から平成15年までの主なできごとを所蔵資料とともに振り返りました。

◆ 平成元年から平成15年までの年表と雑誌の表紙

平成という元号は1989年1月8日から施行された。新たな元号に変わった日本ではバブル崩壊、地下鉄サリン事件、各地で起こった大災害、青少年による凶悪犯罪など、立て続けに日本を揺るがす大事件が起った。また、世界に目を向けると中国の天安門事件、ベルリンの壁崩壊、ソ連邦の崩壊、アメリカ同時多発テロなど、他の多くの国でも、大きな変化と試練に直面していたことが分かる。



◆ 昭和から平成へ 天皇陛下崩御と新元号

昭和天皇の「大喪の礼」は平成元年2月24日に行われ、164カ国27国際機関、欧州共同体から元首級55人を含む弔問代表、使節団をはじめ国内の各界代表者約1万人が参列した。天皇陛下崩御の後には一連の皇位継承儀式が始まり平成2年11月12日に「即位礼正殿の儀」が挙行され、御即位を内外に宣明された。その後「祝賀御列の儀」としてパレードが行われ、沿道には11万7千人が集まった。



◆ 歴代総理と閣僚



平成元年からしばらく総理大臣が任期を全うせずに辞任するという不安定な政権が続いた。平成15年までに就任した総理大臣は11名。展示の資料は歴代閣僚集合写真の雑誌表紙。



◆ 阪神・淡路大震災

平成7年1月17日午前5時46分、淡路島北東約3キロの明石海峡を震源とするマグニチュード7.3の直下型地震（兵庫県南部地震）が発生した。死者・行方不明6437人、負傷者4万人以上、住宅被害は63万戸以上にのぼり* 高速道路をはじめ道路や鉄道などの交通網、電気、ガス、水道、電話などのライフラインが寸断され、各地で火災が多発した。地震の発生が就寝中の人が多い時間であったことも原因になり多くの犠牲者が木造家屋の倒壊によって圧死・窒息死に至った。

* 総務省消防庁による



◆ オウム真理教・地下鉄サリン事件



平成7年3月20日午前8時頃、宗教団体オウム真理教によって地下鉄日比谷線、丸ノ内線、千代田線の3路線計5本の車内で猛毒のサリンが散布された。無差別大量殺人を目的とした「地下鉄サリン事件」である。麻原彰晃こと松本智津夫を教祖・創始者とするオウム真理教は、坂本弁護士一家殺害事件（平成元年11月）、松本サリン事件（平成6年6月）、公証人役場事務長逮捕監禁致死事件（平成7年2月）など数々の犯罪を行い、教祖麻原は平成7年5月に逮捕され平成8年には宗教法人上の解散が確定した。

図書館では「平成史 part2」の展示を予定しています。（開催時期未定）
お楽しみに



ヒット映画の
パンフレット、DVD

暑い夏！熱いインドの映画を観よう！

インドは映画制作、観客数が世界でもトップクラスの国で、「ハリウッド」をもじってインドの映画界を「ボリウッド」と呼ぶほどです。日本では1990年代後半に注目され始め、最近も『バーフバリ 王の凱旋』が話題になりました。登場人物のキャラクターが濃い、途中で出演者が踊り出す、鮮やかな衣装をまとった美女が登場するなどのイメージが強いインド映画ですが、派手で楽しいだけではなく、優れたストーリーの作品も多く作られています。

視聴覚資料室で鑑賞できるインド映画、インドを舞台にした映画を紹介します。

◆ ムトゥ：踊るマハラジャ/K・S・ラヴィクマール監督・脚本・台詞 1995年インド

1998年日本で公開され、インド映画ブームのきっかけになった作品。
インドのスーパースター、ラジニカーント主演。

請求記号：F778-1377（横浜図書館）



◆ スラムドッグ\$ミリオネア/ダニー・ボイル監督 2008年イギリス

インドの小説家V.スワラップの『ぼくと1ルピーの神様』をイギリスの映画監督ダニー・ボイルが映画化。テレビ番組「クイズ\$ミリオネア」で最高賞金を勝ち取ろうとするスラム育ちの無学な青年ジャマールの過酷な人生の物語。アカデミー作品賞含む8部門受賞作。

請求記号：F778-84（横浜図書館）

F778-608（平塚図書館）



◆ きっと、うまくいく/ラージクマール・ヒラーニ監督 脚本 2009年インド

インドアカデミー賞で最多の16部門受賞作品。楽しく笑える青春コメディにして多くの人を感動させた名作。

請求記号：F778-1308（横浜図書館）



◆ めぐり合わせのお弁当/リテーシュ・バトラ監督 脚本 2013年インド、フランス、ドイツ合作

インドではダッパワラーと言われる配達人によって、各家庭から職場にお弁当が届けられる。その配達間違いから生まれた孤独な男女の交流を描く物語。

請求記号：F778-1452（平塚図書館）



◆ スタンリーのお弁当箱/アモール・グプテ監督 脚本 制作 2011年インド

ワークショップの手法で撮影された映画で、出演する素人の子どもたちは最後まで映画撮影だとは知らなかったそうだ。お弁当をめぐる友情の物語。

請求記号：F778-480（横浜図書館）



ベン・シャーン 画集

Bernarda Bryson Shahn 著；桑原住男訳；アール・ヴィヴァン、蓮見哲弥編集

東京：リプロポート，1981.12

請求記号：B723-137(事務室書架A)

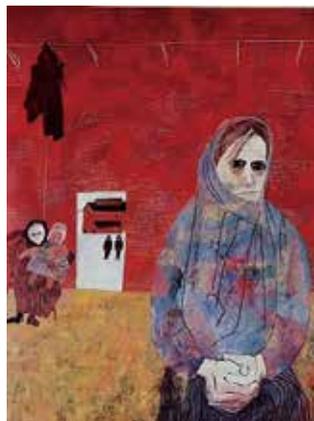
絵画を鑑賞するとその色彩の美しさや、まるで生き写したようにその対象を再現する技術の巧みさに感動させられることがある。特に 19 世紀以前の西洋絵画にはこのような素晴らしい作品が多くあり、世界中の人々の眼を楽しませている。それとは全く異なるタイプの作品もある。その絵は大胆にして繊細なタッチを持つ。写実的ではないが、対象の本質は正確に描かれる。彩色は現実とは異なるがその在りように忠実である。一見ただけではそこに何が描かれているのかすぐにはわからないが、そこから伝わるある種の感情は力強く、その絵の中に自分が知らない真実の存在を予感させられる。

ベン・シャーン (Ben Shahn, 1898-1969) は、そのような作品を描いた画家の一人である。リトアニア生まれでアメリカに移住し、石版画工の仕事しながら夜学でハイスクールを卒業、海洋生物学者を目指して大学で学んだ後、絵を学んだ。1920 年に起こった「サッコとヴァンゼッティ事件」をテーマに描いた作品(1931-1932 年制作)が大きな反響を呼び、他にも労働運動弾圧を背景にした冤罪事件《トム・ムーニー事件》(1933 年制作)や、1954 年にアメリカの水爆実験で日本の漁船「第五福竜丸」の乗組員が被爆した事件を扱った《ラッキードラゴン・シリーズ》(1960 年制作)などを描き、20 世紀アメリカを代表する社会派の画家として知られている。1930 年代にはニューディール政策の活動の一環で農業安定局 (FSA) のプロジェクトに写真家として参加し、アメリカ各地の農村部の惨状・復興を記録した。

本書『ベン・シャーン画集』は、日本で出版された画家の最初の画集である。作品《ゴイエスカス》(今号表紙)は本来「ゴヤの絵のような」という意味で、この作品では軍人や好戦的な宗教者などを意味する不気味な人物を表している。代表作《サッコとヴァンゼッティの受難》(図右)は、靴職人のニコラ・サッコと魚の行商人パ



ルトロメオ・ヴァンゼッティが 1927 年に冤罪で処刑された事件をストーリーテリングという物語を描く手法で表現した作品である。悲劇的な状況にあるサッコとヴァンゼッティは、毅然とした穏やかな表情で、しかしその手は手錠で繋がれている。手前の女が背後の風景に消え入るように描かれた《坑夫の妻たち》(図左 1948 年)。絶望的な表情を浮かべて大きく描かれた手を固く握りしめて佇んでいる。画集ではこの絵の左頁に《炭坑夫の死》が並ぶ。



観る者の眼は、一瞬にしてベン・シャーンの絵に惹きつけられる。そしてその眼は、自分がまだ知らない物語をその絵の中に探し始めるのである。

(資料サービス課 荏原直子)

図書館からのお知らせ

横浜・平塚共通

■夏季長期貸出について

貸出期間……7月9日(月)～9月14日(金)

返却期限……9月29日(土)

対象……学部生

冊数……10冊

■一般公開休止について

前期試験実施に伴い、下記期間中の一般公開を休止いたします。

期間……7月2日(月)～7月31日(火)

■一斉休暇に伴う休館について

期間……8月11日(土)～8月16日(休)

横 浜

■夏季期間中の開館スケジュールについて

期間……8月1日(水)～9月20日(木)

開館時間……9:30～18:00

○3Fは閉室します。

※日曜、祝日および一斉休暇期間は休館です。

平 塚

■夏季期間中の開館スケジュールについて

期間……8月1日(水)～9月20日(木)

開館時間……9:10～16:50

○視聴覚資料室は閉室します。

※土曜、日曜、祝日および一斉休暇期間は休館です。

編集後記

図書館では毎年新生を迎える四月から前期の間、各種ガイダンスを実施している。FYSの合同授業として大人数で行うものやクラスやゼミ単位の実習形式で行うもの、各種データベースの使い方など今年も様々なガイダンスを実施した。その中で必ず行うのがOPACという蔵書検索ツールの説明である。使い方は簡単だが色々便利な機能もあり、これが使えないと図書館にある資料が探せないということで必ず説明している。

OPACを使えばキーワードを入力するだけで膨大な蔵書の中から簡単に欲しい本を手にすることができる。ほとんどの場合、これで必要な本は見つかる。だが、時には期待を裏切られる事もあり、検索して見つけた本に自分が求める記述が見いだせないことがある。その本に求める一文があるかどうかは、実際に手に取って開いてみないと分からない。OPACで探ただけでは自分が本当に必要としている本にたどり着けない事もあるのだ。必死になって本を探したことがある人なら、このような経験をしているはずだ。

テクノロジーが高度に発達しても、それとは別に自分がそれまで培ってきた感覚を働かせなければ本当に求めているモノにはたどり着けない事がある。もっとも、システムに提案されたモノを自分の求めるモノだと思ってしまうが別だ。

本探しもそうだ。書架の前に立ち、何段にも並ぶ本を眺める事。一冊だけでなくその近くの何冊もの本を開いて確かめる事。本というモノが送ってくるサインを感じとる事。本当に自分が求める一冊にたどり着くには、こういった行いが必要である。そして図書館にはこれからも、それができる環境が必要である。

(N.E.)



今号の表紙

ベン・シャーン 画集より《ゴイエスカス》1956年

Bernarda Bryson Shahn著；桑原住男訳；

アール・ヴィヴァン、蓮見哲弥編集

東京：リブレポート、1981。

20世紀アメリカを代表する社会派画家として知られるベン・シャーン (Ben Shahn, 1898-1969)。横たわるたくさんの人の土であやとりに興じる不気味な人物が描かれている。7頁「図書館の所蔵資料紹介」に解説あり。